

瞑目する風景

こころの王国

こころのなかに自分の王国を秘める者は幸いだ
日々のつらいことも悲しいこともここに雨を降らすことはできない
湿った気分を少しだけ、乾かしてみたら？

障子という境目

親は、うまれてはじめての、呪縛の、試練となるだろう
障子の内側でむくわれない愛が支配へと変わってゆく
いたたまれないときは障子を破ろう、羽ばたくべき時は羽ばたく
身内という「内」を捨てればわが身ひとつ
すがりつくべき火宅なのか、外を見てみれば？

学び舎という牧舎

聖職者は生殖を隠匿し不正職をなすのだろうか
十人十色を十把一絡げにくくり平均台の上で差異を切り揃える
あふれるスプラウトは校則という拘束で脳梗塞のかきくけ子に成形される
法で定められた国民的義務の芽むしり枝打ち公私刑とその隠蔽
牧舎の汚染土壌は湿ったいじめムシも培養する
うるたえるのではなく、訴えつつ耐える
学舎だけが学びの場ではない
先人の書は君の領土を耕すだろう
先達の音楽絵画は君の領土を潤すだろう
こころにはもっとゆたかな光景を、与えては？

運命共同体？

そこは入会地、住み着くような場所ではない
付かず離れずのシーソーゲームを遊べばよい
毎日、何年もそして人生をかけた、と思いたい価値も
一歩離れてみると額縁に納まった家訓のたぐい
火事になっても、持ち出す者のいない分別ゴミ
あなたのかけがいのないものと、天秤にかけてはならない
会社の常識Ⅱ社会の非常識なのだ…：
命運を賭けて、運命を切り開くという綱渡り
人々を束ねているのは密室の縛りであり
同期の桜の絆でもなければ連帯でもない
損得勘定の編み目をほどこき運命？を組み直してみれば！

心の領土

こころの片隅に自分の領土を秘める者は受苦するだろう
ピンホールから視る外の景色は逆立している
親から離れ、師の許を去り、ひととぶつかり、市民社会からはじかれる
領土への径（こみち）はメビウスの輪であり、
いつしか反転して外に還る
このいら立つ風景を修正するためにロゴスをあやす

微かな感応の響きで君の眼差しを彩れ
明瞭なノンの意思を細心の指先に宿せ

過去の校正ばかりの日記であつてもよい
描き直してばかりの画布であつてもよい

いま、生きえて、ここに在る